

## 「生物資源」分野

- 1 目的 希少糖の生産やバイオテクノロジーの技術を学ぶことで、生物学や化学の分野の可能性に気付くとともに人々の協働によって成し遂げられる研究開発の過程を知る。また、希少糖の性質やその活用方法を学ぶことで、生物資源を活用しての地方創生をテーマとする課題研究の課題発見・解決の糸口とする。
- 2 日時 平成28年6月22日(水) 12:30~15:30 [A週65分]
- 3 場所 香川大学希少糖研究センター(以下「希少糖センター」)(木田郡三木町)
- 4 参加者 1年生「生物資源」分野選択者16名(男子7名、女子9名)、教員2名
- 5 内容等



香川大学農学部に入り、構内に設置されている「希少糖センター」を訪問した。まず、希少糖の発見者でもある何森教授から直々に、希少糖の発見秘話や「イズモリング」の構造等について教えていただき、生徒は「希少糖」の有用性や可能性等について理解できた。その後、「希少糖生産ステーション」に移動して、希少糖を製造する過程について説明していただいた。生徒は、実際に高価な「希少糖」を味見させていただき、「希少糖」の甘さを実感し、その活用方法等に思いを巡らせた。さらに、希少糖を含む植物「ズイナ」の培養方法等についても教えていただいた。最後は、希少糖発見の地にて記念撮影をし、充実感をもってフィールドワークを終えることができた。



### 6 生徒の主な感想

- ・実際に見学してとても興味をそそられた。
- ・希少糖の作り方がよく分かった。おいしいことも。
- ・希少糖を作る機械を見られてよかった。 ・1万円もする希少糖を食べられて良かった。
- ・希少糖の説明も分かりやすかったし、生産ラインもとても楽しかった。
- ・希少糖のことに少し詳しくなれた。農学部に興味が出てきた。
- ・何森先生から、世界的な研究とは個性的な研究を指すと教わり、自分の個性や自分の好きなことを求める力を大切にしたいと思った。
- ・どれほど希少糖の発見や研究が難しいものだったのか、身をもって感じた。
- ・希少糖をつくる微生物の発見は、本当に奇跡的なことで、研究は運も必要なのだと分かった。
- ・研究をしている人達の探求心やあきらめない心、コミュニケーション力は素晴らしいものと思った。
- ・希少糖の話聞くことで、地方創生につながるものが見えたと思う。
- ・希少糖にはいろいろな種類があると聞いたので、種類や生産方法を調べてみたい。
- ・希少糖がどのように作られているかが分かった。私も香川大学へ行って研究したいと思った。
- ・香川大学の中を見学できてよかった。 ・理系の学生の生態も見られて楽しかった。
- ・大学の研究室がどんなものかが分かった。学生がみんな一生懸命に研究室で研究をしていてすごいと思った。
- ・実際に大学の研究室を見て、将来自分もこのような場所で研究したいと強く思った。
- ・これまで農学部には興味がなかったが、とても面白そうだった。